

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201259		
法人名	有限会社 黎明		
事業所名	グループホームありあけ		
所在地	神戸市西区水谷1丁目11番21号		
自己評価作成日	平成30年6月25日	評価結果市町村受理日	平成30年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成30年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 入居者の自己意志・希望・人権を重視しそして安全の確保を忘れない</p> <p>2. 家の次に居心地の良い所、家族の次に安心できる人として、家族とのパートナーシップを大切にすする。</p> <p>3. 家族と共に地域と共に住み続けられる事を支援する。</p> <p>以上のケアの姿勢と入居者が、ゆっくり 楽しく 自分らしく 普通の当たり前の暮らしを支援しています。</p>

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>散歩や買い物等日常生活に便利な静かな住宅地にあり、前庭一面の花壇に季節の花が咲く家庭的なグループホームである。自治会・民生委員・ボランティアの協力があり、利用者が地域とのつながりを大切に生活できるように支援している。「のんびり 楽しく 自分らしく」をモットーに、介護計画に基づいた個別ケアに取り組む仕組みが整備されている。昼食はユニット毎に献立・買い物・調理を行い、利用者も参加して手作りの食事を継続している。気候のよい時期には散歩や外気浴を日課とし、ユニット合同のクラブ活動やイベント、ユニット毎の遠足等、利用者が楽しめる機会作りを行っている。ユニット会議や勉強会を毎月行い、職員の資質向上と情報共有に取り組んでいる。家族の面会も多く、毎月の短信で体調や生活の様子を報告し、家族との連携に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の思いを第一に考え、これまでの生活と同じように暮らせるようにし、地域の住民の一人として存在できるように管理者と職員は現金を理解し、生活を支援する。	法人共通の理念・基本方針を作成し、地域交流・地域貢献など地域密着型サービスとしての意義を明記している。玄関・各ユニットの事務所に掲示して、職員間の理念の共有を図っている。カンファレンス等で利用者個々の介護計画や支援方法を検討する際には理念に立ち戻り、理念の実践につなげるように取り組んでいる。	
2	(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や防災訓練に職員入居者ともに参加し、同じ地域で暮らしている事を互いに認識する様にしている。	近隣の散歩を日課とし、買い物・喫茶等では地域の店を利用し、利用者と共に地域に出かけられるように努めている。春の「餅投げ」行事に参加をしたり、近隣住宅の「ガーデン開放」を見学したり、秋祭りの神輿の立ち寄り等、地域との交流がある。民謡、大正琴等のボランティアの来訪も継続している。トライアルウィークの受け入れ、介護相談の受付など、地域貢献にも取り組んでいる。	
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い、入所者の現在の状況を報告し、介護度による認知度の違いや対応方法を地域の方々にも理解して頂き情報の共有を行い、参加された方の問い合わせにもこたえられるようにしている。		
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行事やレクリエーションを行った内容を報告し、自治会長の参加もして頂き、情報を共有する。参加された方の変更を取り入れてサービスの向上を行う。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・地域代表（自治会長・民生委員）・知見者（他事業所職員）を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。資料をもとに入居者状況・行事等の事業所の取り組み・第三者評価等について報告し、その後、意見・情報交換を発売に行っている。地域の行事や災害についての情報や他事業所の取り組み等を、サービスや運営に反映している。議事録は、玄関の掲示板に設置し公開している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加して情報交換をしたり、空き状況を伝え紹介してもらったり、困難事例の帯をウなど参行使している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の状況や取り組みを伝えている。「西区グループホーム連絡会」に区の職員の参加があり、連携を図っている。地域ケア会議にも参加し、困難事例等について協働している。福祉的支援を要する利用者については、区の保護課の担当者と連携して支援している。必要時には区や市の窓口に相談して、指導・助言を受け適正な運営に取り組んでいる。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行いどのような事が拘束になるのか職員全員が周知してケアを行うようにしている。	重要事項説明書で家族にも説明し、身体拘束を行わないケアを実践している。年間計画をもとに研修を実施し、テスト形式の研修やグループワーム等、ユニット毎に研修担当が企画し学ぶ機会を確保している。リスクマネジメント委員会を設置し、ユニット毎に3か月に1回開催している。利用者の状況により、ユニット・玄関の施錠を行っているが、利用者へ外出の希望があれば職員が対応し閉塞感を感じないように努めている。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について半年毎にケア会議中に時間を設け知識を共有している、職員間でもストレスをため込まないように話し合いをして発生・防止に努めている。	上記と同様に、ユニット毎に研修を実施している。虐待防止ポスターを掲示し、また、気になる言葉かけや対応があれば管理者層や職員間でも注意を促し、不適切ケアの防止に向けて意識向上に努めている。管理者層は相談しやすい関係づくりに努め、また、毎月のケア会議で課題などを共有して悩みや不安の軽減に努め、職員のストレス等が介護に影響しないように取り組んでいる。	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修へ参加したり、利用者様の後見人より話を聞く事で学んでいる。学習での話より職員が学び、利用者家族様に反映できるように努力している	上記と同様にユニット毎に研修を実施している。29年度はユニット間で実施状況に差があったため、30年度は同様に実施できるように計画している。現在、成年後見制度を利用している利用者があり、生活状況や金銭管理の報告等制度利用のための支援を行い、職員が実務を通して学ぶ機会にもなっている。今後も必要性があれば、関係機関と連携して支援する仕組みがる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書は説明時に不安や疑問点の解消に努力している。家族様の分かりやすい言葉に言い換えを行い、家族様のペースに合わせて都度確認しながら納得して頂けるように努めている。質問しやすいように都度確認も行っている。	入居希望者には見学を勧め、パンフレットをもとにサービス内容や料金等を説明している。契約前に契約書類を郵送し、事前に一読できるように配慮している。契約時には、契約書・重要事項説明書・各種同意書に沿って、質問を受けながら丁寧な説明に努めている。契約内容変更の場合は、変更内容を明示した文書を郵送し、面会時や電話でも説明し、文書で同意を得ている。契約の終了時には、家族や移行先に情報提供する等、円滑な移行のために支援している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情についてはスタッフ・管理者へも直接話せるように日頃から努めている。一か月の様子を報告する際にも働きかけている。面会時にはケアプランの説明と共にご意見を取り入れるようにしている。	家族の面会時に近況を伝え、また、「1か月の短信欄」で毎月各利用者の体調面・生活面を報告し、意見や要望が表しやすいように取り組んでいる。把握した家族の意見・要望は「生活記録」の「家人の連絡・相談」欄に記録し、支援や介護計画に反映している。個人的な要望には個別に迅速な対応に努め、職員に「名札」をつける等全体に関わる意見も採り入れている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議時に職員の意見を話しあい、管理者に報告し判断をゆだねている。個別に話す機会もあり、職員の意見を言っている。	ユニットごとにケア会議を月に1回開催し、管理者も各ケア会議に参加し、職員の意見や提案を把握している。個人面談を行い、個別に意見を聞く機会も設けている。記録の書式の変更・クラブ活動等、職員の意見・提案を運営に反映している。基本的には職員の異動は行わず、合同行事・クラブ活動などでユニット間の馴染みの関係作りにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ユニットと関わりを持ち、リーダーから職員の意見を聞いている。勤務状況や環境の整備の必要性などを把握したうえで検討している。職員の希望日数・希望休暇には出来るだけ添うようにしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験・能力を把握し段階をふみながら研修への参加の機会を確保している。内部研修・外部研修の報告する事やケア会議などで知識の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会での情報交換で空き情報を交換し、空いている施設への紹介を積極的に行っている。地域の研修や勉強会などの参加を呼び掛けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今迄の生活様式や生活リズムを踏まえて不安な事を少しずつ解消できるように努めている。コミュニケーションを多く図るように努め、本人の言葉を引き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族様からの不安な事・困っている事はたずねて受け止めている。面会時には職員の方から話しかけ説明の中に気になることは無いか、不安や要望をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向をふまえたサービスを考え、十分なアセスメントと生活歴を把握したうえで計画書を作成し、提供している。必ず評価を行い家族の意見を仰いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けをし、出来る事はして頂いている。「ありがとう・助かりました」と感謝の言葉を伝え介護されているだけでなく協力し合って生活しているという意識を持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と利用者がお互いにかわり合えるように両者の立場から話している。家族様の協力をお願いする事もあり、職員と共に利用者を支えている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の電話を引き継いだり、年賀状で元気であることを伝えるなどの支援をしている。又、ご本人の意向に沿い必要であれば介入している。	入居時の「入所時の記録」や家族記入の「生活歴」から、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。馴染みの人とは電話での交流が多いが、家族・友人の来訪時には居室でゆっくり過ごしてもらえるように配慮し、関係継続を支援している。近隣の喫茶店や自宅等、馴染みの場所にも出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者同士の関係を把握しており、その時に応じて楽しめるような配置を考慮している。又、孤立しないように職員も介入して関わりを増やし、お互いに支え合える関係づくりを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、運営推進会議に参加して頂けたり、作った野菜を持って遊びに来られたりしている。電話にて相談をされたりすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者様との会話から意見を聞いたり思いをくみ取りスタッフ間で共有し、話し合い日々の援助に反映させている。意思疎通の困難な方については、家族様の意見や生活歴を参考にしたり表情や反応からくみ取りスタッフ間で話し合い、本人本位の生活のなるよう取り組んでいる。	入居時に把握した思いや意向は「入所時の記録」に記録し、入居後に把握した思いや意向は「生活記録」に記録し、支援や介護計画に反映している。把握が困難な利用者については、家族からの情報や意見を参考にしたり、表情や反応の観察に努め汲み取れるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や人生史より情報収集を行い、ご本人や家族様からこれまでの生活スタイルを教えて頂き、これまでの暮らしの把握に努めている。面接時には自宅に訪問出来る時は行い環境を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の流れに沿って一人一人の一日の記録に詳しい様子を記入し、把握できるように努めている。スタッフ間で話あいその時ごとの現状把握ができるように努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ご本人ご家族様から思いや意見を聞き、話し合い介護計画を立てている。毎月モニタリング評価を行い、会議で変更の必要性を検討し、見直している。状況や状態の変化等あれば状態に合わせて速やかに変更している	「入所時の記録」をもとにアセスメントを行い介護計画を作成している。実施状況は「生活記録」に記録し、介護計画との連動性は「生活記録」の「ケアプラン」欄に明記している。各利用者の1か月の様子を「ケアの経過」にまとめ、モニタリング・再アセスメントを行い、毎月のケア会議で共有し検討している。定期的には3～6ヶ月で介護計画の見直しを行い、検討内容はカンファレンス記録に記録している。	介護計画見直し時に把握した利用者・家族の意向や、主治医など関係者の意見を、カンファレンス記録などに一元的に記録しておくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人記録に、日中・夜間の様子を細か記入し、心身の変化や希望等の気づきを分かりやすいようにしている。各担当者は詳しく把握し気づきや変化を報告。スタッフ間で話し合い情報の共有を行いケアの実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は付き添い同行している。又、利用者が入院する時には、家族様が対応困難時は必要な入院支援など出来る事は行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での取り組みや行事などは運営推進会議で自治会長・民生委員・あんすこの方から得て参加している。地域の喫茶店や買い物にも行き、資源の活用をしている。散歩時に挨拶をかわり地域の一人として生活している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回往診して頂いている。電話やFaxで様子を伝え助言等頂いており、必要時には随時往診して頂いている。緊急時にはすぐに対応できるようお願いしている。入院先の紹介もかかりつけ医をお願いしている。	契約時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。定期的な内科の往診、必要時の整形外科・歯科の往診を受けられる体制がある。体調の変化等があれば、往診医に随時電話やFAXで連絡し、迅速に対応してもらえるように連携がとれている。通院については家族対応をお願いしているが、状況に応じて臨機応変に支援している。往診の受診結果は「生活記録」に、通院の受診結果は「医療連携表」に記録し、職員間で共有している。家族には、随時電話で報告している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の状態や症状を看護師に報告、相談し、情報共有を行う。いない時には電話で相談し、指示を仰いでいる。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には地域連携室と連絡を取り合い早期の退院に向けて情報交換や相談をしている。お見舞いに行き利用者様の不安を軽減できるように支援している。退院前には看護サマリーを早めにもらい情報の共有と支援方法の検討をスタッフ間で行っている。	入院時には同行し、また、「介護サマリー」を作成し、医療機関に情報提供している。入院中は頻回に面会に行き、利用者の不安を軽減するとともに、地域連携室等と連携し早期退院に向けて支援している。退院前に開催があれば退院前カンファレンスに参加し、早めに「看護サマリー」の提供を受け、退院後の支援について事前に十分に検討し職員間で共有するようにしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに近づいた時には家族様の意見を何度も聞き返し、ありあけで出来るケアを説明し、家族様の了承を得ている。ケアは本人が苦痛を感じる事の無いように安心できるケアを心掛けている。	契約時に、重度化・終末期に向けた事業所の方針を「指針」で説明し、「意向確認書」で家族の意向を確認している。終末期を迎える段階で主治医から説明を受け、事業所でできる事・できない事等を再度説明し、家族の意向を再確認している。事業所での看取りを希望される場合は、看取りの介護計画を作成し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。家族との話し合いについては、経過を「家族・その他の相談・要望記録」に記録している。30年度は、ターミナル研修を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について学習・研修を受けている。緊急時のマニュアルや対応について職員全体に回覧・実施している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。日中・夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。毎回実施後には反省会をし、記録している。近隣住民の方には消防訓練時には参加のお願いのチラシを配布している。地震対応の訓練もしている。	年に2回、定期的に訓練を実施している。1回は夜間想定で、通報・避難訓練を実施し、可能な限り利用者。1回は、昼間の地震想定災害時対応訓練を実施している。参加できなかった職員は訓練の手順書を確認をし、夜勤専従職員者には入職時に夜間の対応手順を説明し周知に努めている。運営推進会議で災害対応について情報交換し、訓練実施時には地域住民にチラシを配布して参加をお願いし、連携に努めている。水・米・カセットコンロなどの備蓄を行い、さらに整備を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で親しく会話しているが年長者であることを意識し、気持ちやプライバシーを尊重した言葉かけや関わりとなる様心掛けている。オムツ交換時は必ずカーテンを閉める。トイレ誘導は本人だけに聞こえるように留意している。プライバシー保護についての研修も行い理解を深める機会を持っている。	利用者尊重を基本理念に詠い、「個人情報保護・プライバシー」「接遇」の研修を定期的・継続的に行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の周知に取り組んでいる。特に、排泄時・入浴時の羞恥心やプライバシーへの配慮について周知徹底に努めている。個人情報に関わるファイルは事務所の鍵のかかるキャビネットに保管し、適正な管理に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々どう過ごしたいか、希望等聞いたり、表情や言動からも意をくみ取ったり、閉じた質問をしたりして出来るだけ本人に決めてもらえるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「好きなテレビ(相撲・野球・時代劇等)があるから部屋で見ときたい」という方には好きなテレビを見て過ごして頂いたり、「今日は部屋でゆっくりしたい」「今日は塗り絵がしたい」など、一人一人のペースを大切に希望に沿いながら支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回美容院の方に来てもらい、内装を整えてカットしてもらっている。毛染めの希望がある時は毛染めも行う。衣類を選ぶ時も二択にする等してご本人に着る服を選んでもらう。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節の物や利用者の好みを取り入れている。利用者と共に買い物へ行ったり、皮むき、台拭き、お茶入れ、配膳下膳等食事に関する一連の流れを男性利用者も交えてそれぞれできる利用者と共にやっている。	朝食・夕食は業者から搬入し、昼食はユニットごとに献立・買い物・調理を行い手作りの食事を提供している。季節感や利用者の希望を採り入れて献立作りを行い、買い物・野菜の下準備・テーブル拭き・お茶入れ・配膳・下膳などは、利用者の希望や力量に応じて参加できるように支援している。職員も同じ食事で食卓を共に囲み、家庭的な雰囲気ですべてが楽しめるようにしている。出前をとる等、変化が楽しめる工夫もやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量を把握している。水分量が少ない時にはお好きな飲み物を提供し必要な量を確保できるように努めている。好みを把握し食事量が少ない事が続いた時は好みの物を提供し、食事量や栄養を確保できるよう努めている。不備の状態に応じて食べやすい大きさ、形態で提供し、栄養摂取や水分確保の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じて声掛け、介助にて口腔ケアを毎食後行っている。毎週歯科往診があり必要に応じて義歯の調整やブラッシングなど行っている。その方に適した口腔ケアの相談も行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が目立つようになると排泄パターンを把握してトイレ誘導を行う事で排泄の自信と、トイレに行くことの認識を持って頂けるようにしている。なるべくADLを低下させないように下着の上げ下げ等自力で出来るように声掛けしている。	ユニットごとに、また、利用者個々の状況に応じて、記録・チェック表を工夫し、利用者個々の排泄状況を把握し記録している。必要に応じて声かけ・誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄・自立支援に努めている。毎月のケア会議で利用者個々の状況共有と、現状に即した介助方法や排泄用品の検討を行っている。トイレ誘導時の声かけや、オムツ交換時のカーテン・ドアを必ず閉める等、プライバシー・羞恥心への配慮の周知に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・ストレッチを行い、水分量の把握・食物繊維の多い食べ物・ヨーグルト等運動面と食物面で気を付けている。必要時に服薬調整を行っている。オムツ着用の利用者様にも適宜便座に座り排便を促している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マンツーマンで入浴している。入浴声掛けに拒否があった時は時間を置き、再度声掛けする事でスムーズに入浴してもらっている。拒否のある利用者様には本人のタイミングがつかみやすいように時間的に余裕をもって声掛けしている。	週に2回の入浴を基本とし、個浴でゆっくり入浴できるように支援している。異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応し、入浴を嫌がる利用者には声かけやタイミングを工夫し、入浴機会の確保に努めている。毎月のケア会議で利用者個々の状況共有と課題検討を行い、2人介助やシャワー浴等、安全に入浴できるように支援している。ゆず湯・菖蒲湯など季節を楽しめる配慮も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を知り、居室にて臥床して頂いたり、ソファや畳を敷いて休憩して頂いている。入眠前に不安発言のある時は傾聴し、おにぎりや暖かい牛乳などを勧めたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が今服用されている薬が分かるように、効用・副作用・朝・昼・夕・眠前の表を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族・本人様から伺った話を参考に編み物・塗り絵・切り絵・散歩・メニュー書き・カレンダー交換・食事の挨拶等残存機能を活かした楽しみ方・役割を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物同行・個別の喫茶に行っている。お花見に近所の公園に行き、自治会の方にパイプ椅子を貸して頂いている。近所のお祭りの餅投げにも参加している。遠足も年一回行っている。ご家族の来苑時には喫茶店や散歩など行かれています。	利用者の希望に沿って、気候の良い時期には散歩を日課とし、食材の買い物にも一緒に出かけている。初詣・花見等季節の外出や、餅投げ・ガーデニング散歩・秋祭り等の地域行事、喫茶店にも出かけている。ユニットごとに遠足を企画し、動物王国・工場見学・淡路島等、普段は行けないような場所にも出かけられるように支援している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に一度パンの購買日があり、買う・選ぶ楽しみを家族の了承を得て少しのお金を管理できるように支援している。買い物外出の際にはスタッフが見守りしながら好きなものを本人に支払いして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が携帯電話をお持ちの方は使える方はご自由に使って頂き、ご家族様との会話も楽しまれている。希望があればいつでもかけることができる。年賀状も出しており、ご友人から来た年賀状には返事を書くように促している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、壁画等レクリエーションで作ったものを飾っている。生活音としてのテレビや調理の音・匂いも心地よいように配慮している。温度計・湿度計を置きチェックを都度行っている。	各ユニットの共用空間はゆったり広く、清潔感がある。テーブル席を数か所と、テレビの前にソファがあり、思い思いに過ごせるようにように工夫している。利用者と一緒に制作した季節感のある作品を壁面に飾り、また、花壇の生花を飾る等、季節感を大切にしている。キッチンからの調理の音や匂いや、調理への参加から生活感が感じられるように工夫している。温湿度計でチェックすると共に、臭気には特に留意し、快適な環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはご本人の席があり、ゆったり過ごせる。テレビ前にはソファを置いたり、少し隠れた位置にソファを置いたりしてそれぞれが思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご自宅にあった物を持ってきていただくようにしている。各居室にボード等設置し、家族の写真や飼っていた犬の写真や飾りをつけて落ち着いて暮らせる空間づくりをしている。	各居室に大型のクロゼットとベッドが設置され、それ以外は、テレビ・筆筒・整理棚・仏壇・ぬいぐるみ等、使い慣れた家具や好みのものが持ち込まれている。できるだけ入居前に自宅訪問し、自宅と同じようなレイアウトや環境づくりができるように支援している。写真や書道、合同レクリエーションで制作した作品等を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントや日常生活動作を通して出来る事・出来るかもしれない事を見守り、一緒に行う事で不安のない安心した生活環境を整えている。		